WASON
HQ
1104
J74[1]

THE WOMAN'S MAGAZINE

Feb 18
1888
no. 9?

女學雜誌

明治二十一年二月十八日刊行

毎土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送税

第九十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

附 高知縣會議事 録

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 97, FEBRUARY 18TH, 1888.

第九十七號

EDITORIAL:—Family Life in Japan: No. II. (Few Happy Home in Japan.

LEADING ARTICLES:—Women's Influence, by Mr. K. Suzuki; Relation of Girl Students to their Parents and Guardians, by Mr. K. Irokawa.

CRITICAL NOTICES:— "Fujō no kagami" (Woman's Book).

MISCELLANIES:— Influence of Home: Harmful Results of the Use of Cosmetic.

NOVELS:— "Last Days of Pompeii" (Athenian's Confession); Bouquet of Novels: No. 1.—Scott's Kenilworth. (II).

BIOGRAPHIES:—Olympia Morata.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社說　日本の家族（第二）日本に幸福なる家族少し

●論說　婦女子の感化勢力（鈴木券太郎）○父兄と女學校（色川國士述）

●批評　婦女鑑

●叢話　家族の勢力第二○チシロヒの害

●小說　奔彪榮華の夢（雅典人の述懷三）○小說神髓第一篇（スカット氏ケチルヲルス第二回）

●寄書　歌○加藤氏品行論（安西りう）

●新報　二十六件

●附錄　小供のはなし第二回（ハイく只今）

●珊瑚の珠　（第五十三回）

○ラスキン曰く驕慢と云へるものは惣べての誤謬の根底となるもの也其外の私情は時として善を爲すとありと雖ども凡そ驕慢にして能く惡の源とあらざるとは莫あり（トリウ、エンド、ビウテー）

○ハウソルソ曰くこれ蓋し眞か婦人は幼あ兒をシカと抱きしめて殆んど叫び聲を出さしむる斗りなり眼を下に向けて胸の上の赤字を眺め指を擧て之に觸れ此の文字も此の幼な子も皆な眞實の事ありと證しせり然り此等は皆な眞とありき然れど其他は皆は僞りにてありき（スカーレツトレツター）

○コーレリッヂ曰くあらゆる考えあらゆる情あらゆる樂しみ凡そ此の骸骨を動かすところの者は皆あ愛と云へるものゝ使ひにして惣べて是れ愛念の聖火を燃やすところの薪あるなり（ラブ）

○ベーコンの言ふ所ろに曰く凡そ獨居を樂しむものは神明にあらずんば即ち獸類たらん（フレンドシップ）

○ある人申けるは姙女の男子と女子かを知る俗傳に婦人の年と夫の年との數を合せて三うに割り殘りある時は男子あり割切れるは女子あり產月どしを越れば一つを其數の中に加へて三つに除するに十に八九違あし理齋隨筆餘り馬鹿くし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第九十七號
明治二十一年二月十八日發兌

社說

〇日本の家族

（第二）　日本に幸福なる家族少なし

我國には一族團欒和樂して眞に其幸福を極むる所の家多くありや否や、若しも多く之れありとせば日本國の幸福之に過たるは無し。國民の氣風之れよりして純潔と爲り敦厚と爲り正直と爲り事に臨んで剛毅と爲り果斷と爲り貞烈と爲らん、蓋し一族中の人相思相愛して切れども離れず、恰かも相ひ抱ひて倚ほ相縛するが如きか、而して一家の親睦は一村親睦の基ひにして一村の親睦は一鄕の親睦とならざるはなし、如此して一縣一國遂に之が影響を蒙むり日本の全帝土悉く相思相愛の人を以て充滿するに至らば、法律は巡査兵隊サーベルスナイドルを要せずして行はれ國權は術數權謀及び獨り外務大臣が條約改正に於ける苦辛を要せずして確立すべし、日本帝國の幸福之に過たるはなし。

然るに吾人眼を密めて國内戸々の内端を窺ふ時實際の景況は翻然として悉く豫想する所と反對するを見たり。先づ一戸の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

主人何の何某と稱するものは面ての表札に其名を掲げ官の戸籍帳に萬能の權を戴き瘦せたりと雖ども四本の手足は即はち以て一家族を養ふ所ろの大黒柱と爲る、故に其の外に出でて低頭平身すると蜘蛛の如くなるにも係はらず家に歸りては驕然としてホラを吹くと齊人に劣らず則ち一家内に君臨して顏を大きくし細君を勝手に叱り散らし子供を亂暴に遣ひ廻はし彼の上役貴人のまえには唐臼の如く運動したる首も腰も一家内には殆んど片環病人の如く不活潑と爲りて一品を取るも置くも悉く人の手を煩はさゞるはなし、其の勝手氣儘なると言語に絶すと謂ふべし。良人家に歸つて後ちに如此く待遇さるゝ所の細君は即はち良人家を出でゝの後に亦た如此く人を待遇する所の氣儘ものたり譯も無きに子供を叱り散らし用も無きに召使を遣ひ廻し火鉢の傍らに座を占めて半日を消し勝手に人を罵つて自から主人留守中の攝政關白なりと誇る、而して本來良人の働きに委賴して衣食し自分は唯だ其厄介たるべきものと心得尙斯の如く心得て人に如斯く待さるゝを愧と爲さゞるが故に其身に内助の義務あるを知らず亦内助の左程に効能あるとを辨ぜず決局下婢の長と爲て一家の留守番を勤め良人歸るのち多少其機嫌を取り偶ま無理を言はるゝとも之を御尤もと爲し以て貞節を盡し女德を守るべきものと覺悟す憫むべきの極にあらずや。夫妻の間其の相見る所ろ既に如此し夫の眼中に妻を敬するの念なく妻の心情安んじて夫を愛するの自由あるなし勢ひ一方は驕り一方は恐れ一方は檀那と爲り一方は下婢となり一方は氣儘に一方は卑屈と爲る則ち其の間だ冷淡にして靴を隔の足帽を戴くの頭の如し相感ずるの情自から疎遠にして隨つて愛慕委賴の情に薄く遂に夫は妻を厄介物と認め妻は當家に辛棒するものと思へり、如此して安んぞ茲に眞正のホーム眞正の和樂團欒あらんや」然るに當今夫妻の間の冷淡なるは必ずしも單に其兩人の情愛の冷淡なるのみに因るにあらず亦た一家の中夫の父母兄弟なるものあるに由るあり、此等の人々は細君より稱して姑舅及ひ小姑小舅と云所のものにして即ち主人の爲に探偵撿察官と爲り細君の爲に巡査試撿官と爲る其志は素より良と雖も其行は遂に只曲れるを發いて治安を妨害するの決果を呈するに過ず一家の平和を維持するに於ては彼等が心配する所の万一の効能だも之なきものあり。盖し姑舅は細君の來りたるより以降躬が何となく己に疎遠となりたるを怨み彼が万事其妻に委賴して老人を忽諸にするを不平に思ひ其の由緣は必竟嫁が躬

をたぶらかして在る事無き事を造り言するに由ると思ひ如此くして止まず彼れ只だ妻の言ふがまゝに從はんには一家の滅亡遠きにあるべしと餘計に心配するあり然れども如此き心配は面のあたり之を忰に忠告することも出來ずさりとて腹中の不平いよ〳〵脹れて遂に顏に現はれ言葉に現はれ處置に現らはれて則ち所云る嫁いじめの不幸となり了るもの也、而して小姑小舅はさしたる信切もなきに只だ譯なく此の新嫁を好まず其身の元來當家の生子たるとを鼻に懸けて嫁を他家の人ありと見做し只だその落度を發見して親に告口するとを務め甚はだしきは新夫婦の間柄別段に睦まじきときは反つて之を冷笑して其の同胞を迷へるものと爲すに至る、俗言に小姑小舅の意地あしきは倘ほ姑舅に增さると云へり蓋し姑舅の處置は元來其の忰を愛し家を思ふの信切に出で只だ少か僻む所あつて誤つて意地惡の行に陷ゐるものと雖ども小姑小舅の處置は大率ね如此き信切に出でず多くは純然たる惡意地の念より起り來たるが故に細君の忍ぶ可らざるの苦惱も亦た一層に深しと云ふべし。抑も家內すでに如此き數多の目付敵役あり主人たとひ其の妻を愛すると雖ども父母兄弟の思はく何如あらんと懸念し陽はに其愛情を現はすを得ず特更に淡泊に處置して之をつれなく待遇し時には故なく叱り懲らして親同胞に一邊の義理を盡すが如きとあり而して深夜閨中に洋々相對する時と雖ども敢て妻の訴を聞かず其の泣いて訴ふる時は假りに怒りて之を制したゞ心を詐つて之を責め萬事の落度を悉く細君の一身に嫁するを以て丈夫の心得となせり、此如き良人の處置固より可ならず如此き姑舅の處置は亦た固より宜しからず如此き細君の一身眞に不幸を極むるものと雖ども然れども當今の實況滔々として現に如此くあるを如何せん如此くして安んぞ玆に眞正のホーム眞正の和樂團欒あらんや。

一家內の實況畧ぼ如此し此に於て平假令ひ淸淨潔白なると玉の如き小兒を擧げ得たりと雖ども一層の不幸亦之に由て起り生ずるとあり人生最大の樂のこれに依りて得らるべしとは蓋し如此きの一家族中に於て求むべからざるのとたり。凡そ兒の生るゝや彼の嫁に慘刻なる姑舅も倘ほ齒を現はして喜び笑ふを常とす其の孫を愛するは天然の妙法に出で玆に殆んど解すべからざるの情あり朝夕只だ但だ之を愛撫して嘗るが如くす其の信實に毫末の餘念なきは眞に感謝すべしと雖ども此の非常の愛は即はち愛に溺るゝものにして家庭敎育に大害ある所のものなり父ゝ嚴として之を敎しえ母溫として之を戒む

るに係はらず彼の老人ども陰に之をかばひ之を甘やかすに由て温厳の教戒殆んど其効を失なふに至り兒亦定まる所を悟らずして正しきに就くの途に迷ふことあり、然に父母倘ほ一層に厳く之を教戒するときは意はざりき玆に老人と父母との間に一種の不和を生じ兒は甘きに就て父母に來らず親子の愛情互に通ぜざるの怨あるに至るもの也。而して兒を擧げたる后ちの不都合は之のみにあらず此家既に主人夫婦の兒若干あつて外に大歸したる小姑が連れ歸りの兒供幾人ありと云はんに老人の愛情其一方の子に偏して一方の子の怨む所と爲り一方の怨む所ろは即はち主人夫婦及小姑の間の不和と爲り随て主人夫婦及び小姑と老人共との間の不和と爲り亦随て子供同志の不和と爲り引いて更らに其親供の口論と爲り一家全く喧嘩の市場たることあり。如此して安んぞ玆に眞正のホーム眞正の和樂團欒あらんや。

悲矣哉日本現今の家族は大率ね如此き不幸福に充満する所ろの家族にはあらずや吾人は巍峨たる高樓に住居する大家族の國中に甚はだ多きを知る然れども此の大家族に眞正の家なきを見たり、族人彬々婢僕數十人一家殆んど一村の如き大豪族國中の所々に之れ有るを知る然れども此大豪族に眞正の家族なきを見たり、孔子の門弟曰く父母兄弟夫婦子孫一居して團欒すと然れども吾人は如此く團欒するの家に反つて眞正の和樂なきを見たり。嗚呼日本現今の社會果して幸福なる家族多からざるか若し之れなしとせば啻に彼の幸福なる家族あるが爲めに生ずる幾多の利益の收め得られざるのみにあらず我國民の氣象及び我國國權の消長に於て眞に大に慷歎すべき所ろのものあるを知る。

論説

○女子の感化勢力　鈴木券太郎

佛蘭西を改良するに最大一の必要なる者は即ち善良の母なり。(ナポレオン第一世の言)

余輩嘗て論ぜり女子教育は大に國家の風儀に影響を與ふべきものにして即ち其女子の德義とする處の如何に由て國民或は卑屈に沈淪し或は元氣を振起すと今や世上到る處女子教育の論人の口に上らざるはなし識者の盡力文明の餘慶として余輩の先以て感謝する所なり

夫れ女子なるものは人の妻となり又人の母となるものなれば其の母となるや必ず其子を教育せざるべからず其の妻となる

や必ず其夫を薫和せざるべからず左れば女子教育法の方法に依て若くは其の德義操術の如何に依て獨り一家の盛衰に關するのみならず又一國全躰の活動力に影響し其れをして良くも惡くも爲さしむるものなり女子の教育法にして徒らに文華を競ふものならしめん歟其國民の風習は自から惰弱に流れざるを得ず女子の教育法をして義烈を崇ばしめん歟其國民の氣力は勢ひ勇壯ならざるを得ず故に一國の士民勤王愛國の志深きものあらば、そは即ち母の胎育に由來したるものにして母の胎育は即ち女子教育の方針に從ひたるものと知る可し其れ然り女子の教育法は未來の國民を鑄型する所の標本とも云ふべき程の大切なるものたれば現在の國民が其教育法に向ひて謹愼注意を拂はざるべからざること固より云ふを俟ざるなり

昔時スパータの國を見よ其女子を教育するや男子を教育すると幾んど同じき仕組を以てして務めて柔弱を矯め終始艱苦を嘗むるに慣れしむることを教化の大主義と爲したるが爲め其國の女子は擧て潔白勇壯の氣象に富み鬚眉男子を驚かすに至れり希臘史を讀みたるものは則ち具さに知るならんが其國當時の光景を見るに足るものとして一二の例を出さんに曾て年少の兵士あり一日其母に向て曰く余が母よ余が劍は甚だ短きにあらずやと母答て曰く短劍以て一足を先に進まんのみと又或所に一少年あり從軍せんとす其母之に楯を授けて曰く之を上にして歸るにあらざれば之を下にして歸れと蓋し敵を殺さゞれば敵の爲に殺されよ必ず生きて歸るべからずとの戒めありスパータ人が歷史上に於て勇猛の名を擅にせしもの其れ豈偶然ならんやサーモプリーの山路に數十萬の波斯人を要して一步を退かず終に部下三百の兵と共に斃れて朝露と消たるレオニダス其人の如き又亞細亞に侵入して諸所に波斯人と戰ふて武勇の譽を得たるアジエシラスの如き唯國あるを知て我あるを知らざる等勇將猛卒の多くスパータより出し所以のもの果して何ぞや彼女子教育の仕組に基くこと固より云ずして明かなり然に又希臘國の一部なるアデンは全く其女子教育法を異にし專ら慈愛溫和の心性を養ひたりしかば此アデンの風習は自からスパータに反して優美都雅の風致を帶び家族の和親を重じ專ら文學技藝に從へり左れば此國より如何なる人物の出しぞと尋るに哲學にプラトーあり戯曲にエスキラス、ソホレス、ユウリピデス、アリストハチス等あり歷史にヱクセノホン、チンヂデス等あり辨論にヱスキニス、デモスゼニース等あるのみならず其他詩學に畵學に彫刻に建築に有名なる傑士

の發出したること枚擧するに暇あらずと雖も要するに優美都雅の風尚を帯びたる人ならざるなし以て其原因の女子教育にあるを知るに足るべし。

我國の如き歴史に就て看察を下すに精密に同様なる原因結果あるを確むべし夫の淸少納言、紫式部、和泉式部、小式部、伊勢大輔の如き皆な和歌を善くし文章に巧みなりしと云ふ是等は當時女子の教育は只文華風流を旨としたるに由るものならん而ふして其の斯くの如き風習は女子間に一般に薫染したるのみに止らずして當時の男子も亦固より其の感化を受くることを免れずして或は文弱に流れ或は遊惰に耽り徒に浮華麗藻を競ひたるもの丶如し世に四納言と稱せられたるものを見よ何れも柔懦文弱の徒たりしにあらずや降て幕府封建の世に至り君父の爲め倶に天を戴かずとの風習盛なりし頃には仇を報ずるを以て天晴れ忠孝の道となしたりしかば女子の志す所も亦此の外に出でざりし世に著名なる例を擧れば赤穂侯の遺臣原總右衛門の母が自から刄に罹りて子の義を勵まし近松勘六の母が兒が母の故を以て處を分ち義氣を失はんことを患ひて自刄したる等を初めとして其他子の爲め又夫の爲め義を勵ましたるの例は其際數あることとなり赤穂四十七人の遺士が憤勇の跡ありしも亦此の女子の感化に由るものと云はざるを得ざるなり。

是れに就て之を察するに一國一家族の風習氣象を作るは全く女子の觸手にあるものにして其の志操德義好尙の如何に由り一國一家族をして或ハ勇壯ならしめ或ハ文弱ならしむるもの比々皆な是なり然らば則ち女子教育の道たる最も注意を要するものにして決して之を等閑視すべからざるなり現今の女子教育たる一定の主義に由て進歩するものたるや否や余輩之を審かにせずと雖も而かも今日の女學生明朝人の妻となり又母とならば其感化勢力は國民に向て果して如何樣なるべき乎或ハ恐る第二の國民は遊惰文弱淫奔の輩ならざるはなきを今日の女子和洋の文章を作るは巧ならん社會の交際を爲は巧ならん然ども善良卓絶たる志操德義好尙の素養に至ては則ち如何ん近比ろ氣の毒作ら全く之なしと云はざる可らず嗚呼斯の如きの女子他日の妻たり、母たらば日本帝國は果して如何なる辱落を見べきや一念玆に至れバ覺へず悚然たるもの久し蓋し女子教育法の影響非常に大なると前記の僅々たる例にても既に明々白々たるべし復何をか猶豫して今日の女子教育主義を改め眞正國民の鑄型を作こさゝるや若夫れ遊惰文弱淫奔の子孫

善く我帝國の獨立、文明を維持することを得ば則ち亦實に徼幸ならんのみ

○父兄と女學校　（其二）

色川國士述

スペンサーが申しました、人間は此世の中に立て、御飯を喰べて活て居るばかりが、能ではなく、目的と云ふものがあり、其目的を達するが爲に、五ツの活動をなしますと、即ち第一は、直接に自身の生命を保存する爲め、第二ハ、衣食住に必用なるものを得て間接に我が生命を保存する爲め、第三は、子孫後裔の生育を營む爲め、第四は、社會上及び政治上に關し宜に合ひ己を處する爲め、其次は、自分の心を喜ばしめ樂しましむる爲め、又教育は是等を全ふせしむる爲めのもの故、第一、直接に自分の身命を保育する爲の智識、第二、貨殖に必需の知識、第三、父母となり子孫を養育するの智識、第四は、國民たるに必需の智識、其次は、好尚に係る智識、都て是等の智識を過不及なく適當に得せしむべしと申しました。此説は私共が先づ賛成して居る説であります、就中自分自身の生命を保つ爲めにも、父母となりて子孫を保育する爲にも、肝要なる智識は、生理上の智識で御座ります、其故ゑ生理上の事は、最も注意して教授して居ります、且つ頻りに運動を勸め、其術としては自由遊戯、徒手躰操、器械躰操等を致させます。皆さんも御存じの通り躰操をするには、手も振り舞はさなければならず、或は足も大股に蹈出さなければなりません、左樣して、成るたけ活潑にし、歩にも成るたけ、直立直行を尊ひます、然るに前申します通り、右等の擧動は、餘り評判の宜しくない樣子で御座います。此評判の宜しくないのは、果して學校の罪か、又は親御さん達が、所謂習慣風俗に制せられ、中正を失したる判斷かと、段々調べて見るに、學校は今申す通り、充分なるとはありませんかも知らざれども、且世の中の事は段々進むものでありますから、今日爲るとが明日惡るくなるかも知れませんけれども、今日の處では、學理に徴しても、實地に照らしても宜い積りであります、又親御さん方のとを聞て見ますれバ、敢て習慣風俗に制せられたるとのみではなく、至極尤もの樣であります、左すれば何處に缺點があるかと、大に疑惑を生じ、倘篤と調べて見た處が、其中間に立つ、御子さん方ゑある樣です。左樣すると、御子さん方は御立腹なさいまして、其は先生分らない、學校で活潑にしろと教るから、活潑にすれバ、御内で叱られ、御内で大人敷ナシと、仰らるゝから、大人敷すれば、學校の先生に叱られ、其

上私達に罪があるとは、實に迷惑なとじやと、申さるゝて御座いましよう、又外の御方々も、學校教育と家庭教育と、其主義を異ましたるより、生じたる不都合を、生徒に歸するは、其意を得ずと申さるゝならん、是も亦一應は尤もでありま す、一躰此不都合は、當人衆も、知らず識らずの間だに生じたのであります。

世人が自由と我儘とを間違へ、節儉と吝嗇とを間違へ、謙遜と卑屈とを間違へ、禮讓と諂諛とを間違ふ樣に、活潑とおてんばとも間違ひやすく、其の間髪を入れざるもの故、御子さん方が、知らず識らず間違へたのでありましよう。或人の話でしたが、學校の先生が、活潑にしろと云たからとて、御宅の眞中を、大股に歩いた人もあるそうですが、何處も搆わず、大股に歩けと云ふことは、學校で敎へたのではありません。尙ほ間違の點を擧れば、西洋服は、躰操をするに、日本服よりは、餘程便利であるから、宜からうと云て、西洋服にした處、今の流行に連れて、此處(腹部)をくつとしめて、すがる蜂の樣になり、朝喰た飯が落ち着かんから、晝飯は喰べないと云ふ樣な、奇談もあります、あなた方も洋服を着る時は、少く緩くしめた方が宜しい、宜いのみならず、緩くして貰度い、兩方の肺臓が、肋骨の下の方に顔を出して居る樣になります、又洋服は、何ふも、風を引き易いと云ふ苦情がありますが、是も下に綿の入たものも何も着ず、只外見修飾の一方にのみ偏し、唯細そ〳〵とする方が見宜いと云ふことの爲に、何も着ないからであります。又、衛生法によるも、只考ふるも、机に掛て背の曲つた方が宜いか、眞直の方が宜いかは、是は云はずとも、天然の性に從ひ、眞直なるとの宜いのは、極つております。何んぼ學校の先生が、物好きだつて、おてんばになれの、無暗に流行を追へと云て敎はしません、然し、間違と云ふものは、知らぬ處に出來易いものですから、能御注意を願なければなりません、其れで、婦人敎育會が出來、斯ふ云ふ處に出て、諸君の御話を聞いたり、又私共が御話したりするとか、是から段々續て行ふと云譯だが、是も私の最前申した通り、活潑とおてんば、節儉と吝嗇、自由と我儘との間違の樣なとが有ては、成りません、其は何ぜだと謂へは、是からの女は、人中に出なければならん、今迄の樣に、引籠て居てはならんと云て、無暗に飛出す樣ても困ります、又た、女は、大きな聲で演説をしないから、人に聞へぬ故に、大きな聲をするは宜いが、貴族の前でも、何でも搆はず、往

來て馬子の話をする樣な調子で遣れては、是も亦困ります、箇樣な間違ハ、幾許もあるものですから、是から以來、此教育會々員ハ、餘程注意して、此會は、出過ぎ者の集り處である、社會の風潮に外れてをると云ふ觀を呈され、他人から彼處に行いてはいけんと云ハれる樣では困りますから、聞く人も、話す人も、左樣云ふとのない樣に、御心掛けあらんとを、諸君さんに希望致ます。(完)

批評

(59). 婦女鑑　大本六册(和綴合二百六十六葉)定價一圓　宮內省藏版　吉川半七御用發賣

此書は　皇后宮宮內の文學に命じ國史及び漢洋の諸書に就き婦德婦言婦容婦工の法るべきものを採り編輯せしめ玉へるものと承まはる而して御命を蒙むり主として編輯の任に當られたるは宮內省三等出仕西村茂樹君にて外に山田安榮氏之を校勘し加部嚴夫氏之が修文に任ぜられたる趣きなり。載する所ろの名女凡そ一百二十八人之を和漢洋の三國より採り且つ之を孝女、烈女、貞婦、賢母、女丈夫、等に分ち撰擇宜きを得區分整然として調ひ文章質朴圖畫精密近刊の女學書類中第一の出來と存ずるが故に恐れ乍ら上み　皇后宮の御心に適ひ下も多くの女學生之によりて高意を奉體するの有がたきを待べきを祝し謹んで編者に其の能く命を盡されたるとを謝す。

但し吾人もし此書をして更らに彌よ金玉の書たらしめんが爲に不肖を忘れて敢て考ふる所を直言せば、和漢の名女中より撰擇するところの甚だ宜しきを得たるに係らず西洋婦人中より採取するところの大に貧しきを覺ゆるが如し多くの慈善家多くの教育家多くの烈女女丈夫中より此書に拔き出されたるは僅かに一二にして而して其の尤も有名なるもの丶此に入らざるものあり之れ第一の遺憾とす。次に孔教の道に從ひたる貞婦と西教の愛を重んじたる淑女と相並べんは喩ふるに猶矛を賣て楯を賞するが如し此書の如く漢洋の名女を共に集るものハ勢ひ此の止を得ざるの弊に陷るものあるが故に編者の苦辛定めて淺からざりしとを察し尙ほ其苦辛の跡を確かに認め得る所ろありとハ雖ども然〆編者が只だ悉く事實を叙するに止めて一言半句の評言をも加へざりしハ此書の如きものを作るに便利なる方法にあらずと信す之を第二の遺憾とす。次に文章質朴なりと雖ども生氣なくして字々大抵横臥したり圖畫精密と雖ども線多く肉少くして豐滿の氣に乏し之を最後の遺憾と爲す。然れども此書の如きを他に求むるに未だ一つを

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も得べからず多くの女學生宜しく一集を購つて聖意のある所を奉謝あるべき也。

叢話

○官粉の害

糸の家主人

官粉は婦人に尤も必要の化粧品にして古來より是れを面部或は手足に塗擦て外見を粧ひ或は男子と雖も是れを行ふを禮法とせし事あり官粉の濫觴は紀元千三百八十七年の頃より用ひ始め其の以前觀戒と云へる人是れを發明すと云ひ又小西清兵衛錢屋某の二人支那人より製法を受け得しと云ひ何れか判然せざれども此頃より漸次行なはれたるものならん近時一般素面流行すと雖も今尚俳優妓女の如きは己れの形躰を變化する爲に頻々使用し甚しきは寢牀に入るの前にも塗擦する人あり深宮の女子は殊更に厚く塗布し皓々一壁「ペンキ」に彷彿たるものあり而て痘痕を塡め或は雀班顔班を蔽ひ或は面皰汗疹を包み或は皮皺を伸し千變萬化の妙實に感伏すべし蓋し婦人の幼時より燕脂官粉を多用ゆるは古來の習慣に因ると雖も美衣を着し顔頸雪の如く芳香奇馨の身躰に滿つる者は世上一般是れを尊崇し修飾なきものは之れを賤しむに因るならん故に裝飾を好む人其の效を說て曰く不潔を掩蔽し人位を高尙にし交際上大に益ありと衛生上に於ては修飾なきを好むと雖も世上の習慣に勝つ能はず蓋し官粉の如きは利益あるものと誤信し其の害を知らざる人多からん故に今其の害を略述すべし但し種類に因て其度に輕重あり故に二三の種類を左に記す

日本の官粉は鹽基性炭酸鉛にして澱粉及び水との混合物也芳香は片腦麝香等を入るゝ箱中に貯ふるに因る此の炭酸鉛の製法は種々ありて此所に述べざれども主に鉛より製せしものにして歐洲の白粉より鉛分多く從て害多し

歐洲にては澱粉鹽基性硝酸蒼鉛、炭酸マグチシア、焦性マグチシア、陶土等を用ゆ故に害少なし此の鹽基性硝酸蒼鉛を白粉となせしに就き一の奇談あり今より七八年前龍動府に於て某貴顯の細君が某學校の實際化學を見物に行きしに分析用の爲め發生せしめたる硫化水素の一部其の細君の顔面に達するや否や全顔忽ち黑色に變じ（顔面に塗布せし硝酸蒼鉛と硫化水素と化合せし故なり）傍人一同笑ひを忍ぶ能はざりし從者の告るに因て始めて之れを知り急卒其の塲を走り出しと云ふ但し日本の白粉と雖も然り宜敷注意すべし

粉白を好む人其の利點を述べて曰く凡て官粉は皮膚を白色と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なすのみならず滑澤となし皮疹を治す且つ水に溶解せざる故に鉛の作用をなさず從て無害なり縱令害あるも塗る所の面積は狹き故に害なしと云へり然とも是れ皆誤信にして實際如此利益は毫も存することなし今害ある點を述ぶれば左の如し

一（人を欺く）二（皮膚の諸孔を閉塞す）三（皮膚機能を害す）四（後年其の部の皮膚光澤を失す）五（鉛毒を發することあり）

以上の害は鉛分多ければ從て愈多し縱令塗る所の面積（全身一、五平方メートル顏面三六〇、平方センチメートル）狹しと雖も頻々塗擦する時は吸收せられて鉛毒を發することあり毎に危險なるは官粉を洗ひ落せる浴中に入ることなり俳優の用ゆる官粉の如きは通例の官粉に砥の粉及び酒を混じて煮沸し後に用ゆる者なるを以て皮膚諸孔を閉塞すると密にして害多し鉛毒の症候は醫にあらざれば知り難しと雖も今其一二を云へば食思欠乏と惡心嘔吐を發し又全身羸瘦し時々腹痛ありて便秘するの症あり但し甚きに至ては他に種々の症狀を發するは勿論なり通常白粉の爲に鉛毒症候を發せしと云ふは耳に罹れざるが如きも之れ其の實を知らずして他病と確信し微恙の存するも他に元因ありて來たりしものと思意し等閑に付するに因る。ならん而して之れを發すること尤とも多きは白粉製造人次ぎに俳優娼婦等なり今ま二三の白粉に付き鉛分の含量を示めす

白菊（鉛六一、五％澱粉三六、〇七％水二、四三％）八重綿。江戸の美。和歌名香。金化粧。雪月花。菊重。源氏馨。むつの花。出世香。白妙。富士香。千代の松。以上は平均鉛三分の二乃至四分の三澱粉四分の一乃至三分の一を含む又單に領白粉と稱する者は尤も鉛分に富める者也委細は左表を見るべし

（但し此の表は頃日余が友人より借得たる者也）

	水	澱粉	官粉	一包の價	一包の重量
雪のつや	一、四	二、二	九六、四	〇、〇二五円	一五、〇
夕顔オシロイ	八、二	五七、九	三三、九	〇、〇二	一五、〇
薄櫻	一四、〇	七八、〇	八、〇	〇、〇一五	一六、五
夕顔エリオシロイ	〇、五	—	九九、五	〇、〇四五	一六、〇
雪の曙	八、〇	三四、六	五七、四	〇、〇三〇	一六、〇
月の花	九、八	四五、九	四四、三	〇、〇二五	一五、〇
ハッチリエリオシロイ	一、〇	—	九九、〇	〇、〇一五	一六、〇
エリオシロイ菊重	一二、三	六三、七	二四、〇	〇、〇一〇	一三、五

以上の理に因り鉛分を含める白粉を用ずして陶土或は炭酸マグチシア焦性マグチシア等を用ゆれば害少なし然れども日本に於ては之等のもの少なく從て白粉よりも高價也故に不得止白粉を用ゆるも可成的鉛分の少なきを撰ぶべし陶器に白粉を入れ水を加ふるに沈澱物多きときは鉛分も多き證なれば用ゆ可らず世界一般身躰及び容裝の美あるを尊ぶと雖も有害品を以てなすに及はず寧ろ腦髓の化粧は今日の必要と信ず。

〇家族の勢力　（二）

子供は猶ほ新世界の入口に置かれて將に新奇驚歎すべき色々の事物の上に眼を開かんとするが如し、而して其眼を開くや、最初はたゞ目を留めて之を一見するのみ、これよりして漸く細かに視、次に觀察し、次に比較し、次に考學し、以て其感する所其考ふる所を記臆するものなれば、若し之れに賢き教導を與ふる時は其の進步實に驚くべきに至るものあり。ロルド、ブルーハム曰く子供が生れて後ち一年半より二年半に至るまでの間に、世間の實物を見覺へ、其の自身の力を試み覺へ、尚ほ他の多くの品物の性質を用ひ覺へ、更に自己の心及び他人の心の樣子等をも學び覺ゆるとの多きは、恐らく其一生涯に於て學び覺ゆる諸の知識よりも多かるべし」と、蓋し子供が此頃に於いて集め得たる知識及び其心中に發生したるところの意思にして、若し後年に至り悉く消滅すべしと云はゞ、彼のカムブリッヂ大學の算科一等生もしくはチックスフホルド大學の高等第一級生として稽古し得たる學藝は、尚更に跡方なく失せて之に効なきものと云ふべし、譬るに斯る學藝は此子の一生を一週間長く生存せしむるとをだも得て爲すべからざるべし。

心外より來る感覺を受得る程に、心の最も善く開いてあるは、子供の時なり、尚ほ其心の上に落る火花の爲に心中の薪を燃さんとして用意してあるは、亦た子供の時なり、故に子供の時には迅速に思想を捕えて而も久しく之れを失はざるものなり。スカットが詩を咏むことを好に至りたるは其幼にして未だ書を讀まざりし比ろ、母及び老祖母が時々詩を吟じ之に聞せたるに由緣すと云へり。左れば子供の年代は猶ほ鏡の如し、最初之に映りたる色々の影像をば後年に至りて悉く反映す。故に最初之に映りたるものは其子供と共に存して永久につゞくものなり。之れを以て、始めの喜、始めの悲、始めの成功、始めの失策、等は悉く是れ其子の一生の前景と爲るもの也。凡そ人間幸福の有無は其人の氣質、意志、習慣等の何如に屬

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すると甚はだ多きものなるが、扨て此の三つのものより成る所の人間の品行ハ、則はち子供の間に於て多く修練するものなり。蓋し人には、其の周圍の事情に關せずして能く自からの儘に發達し反つて其の感化を周圍の人々に施す所の自働自助の力なるものありと雖ども、然れども、子供の時に其の品行の上に受る所の僻の何如なるかは最も大切の關係あるものあり。此故に心志高尚なる哲學者と雖ども若し之を不快不德不善の境界に置ば知らず識らずして動物の方に墮落し行くべし、然るを况んや更らに感覺を受くるとの強くして尚ほ更よ助け少なき所の子供をして斯る境界の中に沈しめば之れが爲に其感化を蒙むると果して如何に多きぞや。故に、粗暴不愉快不淸潔の間より、性質信切にして惡を傷むと強く且つ心情ともに淸きが如きものを得んとするハ實に出來べからざるもの也。

左れば、家族ハ後來男子となり婦人となるべき子供の養樹園の如きものなり、而してその善も惡くもなるハ一に此の家族を支配する所の人に由るものなり。若し家族中に愛と義務との精神圓滿せば、もし玆に心と情とが賢き支配を爲さば、又若し日々の生涯が正直にして且有德ならバ、又若し家の取締りやさしく、信切に、愛深からんにハ、此の如き家族中よりハ健全、有益、幸福なる人物を出すとを得べく、此の人物ハ即はち長ずるに隨て其の兩親の足跡を履み、自から賢こく制治し、以て人世の公益を爲すとを得るものとなるべし。然るに之に反して、若し家族無知、亂暴、多慾ならバ、其子も亦同樣の氣質を稟け、長ずるに從つて粗暴、野卑の人と爲り、種々の誘惑多き開化の世界の間だに置かるゝとき社會に尤も危險なる所の人物と爲るべき也。故に、古の希臘人ハ云へり、「然らば則はち奴隷をして汝の子を敎育せしめよ左らば汝一人の代に二人の奴隷を得べし」と、蓋し良家の子も敎育に由て惡人と爲るとを云ふ也。

小說

○奔彪榮華の夢

"Last Days of Pompeii"

英國　笠頓先生　原著
日本　青笠小史　譯述

第四章　雅典人の述懷（三）

此時那の婦人ハ今祈禱を爲す最中なれば顏の衣を明々地に揭げたり、此若人の背後を向時覺えず眼と眼を見合したり、其時若人の眼の底にハ此絕艶絕美なる顏容より放出す赫灼たる光

輝を電光の如く射込れぬと覺えたり(虞朗加士は物語ると此、に至りて更に一嘯の長大息を吐き出し)虞「苦弄日亞士君、僕ハ實に是まで斯る麗艶精美なる顔色を見し事無し、此時彼人ハ人後に歎聲を發する程なれば必らず心に憂欝を感じ居りたるに相違なし、されば其顔容ハ活潑の精神に乏しきも亦其爲に高雅にして優美なる方ハ蓋し其平生よりも立優りて有りしならん、而して其時彼の靈魂より發し來る言ふべからざる一種の或る物が、此れ即ち彼の技の巧き彫刻者が時に其の製像の靈魂の形容として現はす所の或る物が光彩陸離炫耀して仰ぎ見るべからざる程の事で此を抑も神々しいと申さん歟灼々しいと言ふべき歟實に其狀を言ひ現はすにも辭の無き程の艶美を此に(指を以て我が顔を指し)顯はして、然も其上彼の星か月かと疑はるゝ迄の爽かなる眼に露か涙か一杯に含んで居れり、是に至りて僕ハ心に直樣左の感じを浮めたり……ハ、ア此婦人も矢張雅何に因故ある人にして予と同一の感情を以て予と同一の祈禱を爲すものにや……と察せしゆゑ、實は僕は、其時震へながらでハ有たれども彼人に對ひ……御身も亦た雅何の人には在さずや御心中の樣或ハ左もやと竊に推し參らするが……と問掛たり、時に彼人ハサッと面を赧らめて彼衣もて半ば顔を掩したるが、黄鸝、其も夜半月明に啼く黄鸝、鈴、此も錦の帷の裏に鳴す鈴、其の黄鸝か鈴の如き聲音して……然り妾が祖先の灰(骨の事)は以律沙の水の邊に休ひて居り妾の襁褓ハ尼亞波里西(寧波兒)の街の中にて裁縫たるが妾の血液は遠く雅何の川の流を注ぎ入たるものに侍り(家も生れも以多利なれども血統は希臘人なりとの意)……と答へたり、此を聞と僕ハ全身をグルりと彼人の方へ向け……然らば令孃と小生とは血統も一つ心も一つ祈禱も蓋し一つなるべしいざ此より御身と我等と同躰同心の祈願の筋を一緒にして同躰同心の供物を供ん……と云たるに彼人は初て嬉氣に莞爾と笑り、君此笑顔ハ何なで有たか宜く察て呉玉へ、斯て法師も出で來れば諸共に神壇の前に額づき阿利襪の花環を神机に措て退きたるが此時僕の心中に一種神聖無垢純精靈妙の感情が起て……吁嗟我々は共に遼遠なる滅亡せる異邦の人にして共に此他に人も無き我々の故國なる神明の殿堂に來り不思議にも會合て共に祈禱の信心を凝とハ嗚呼抑も何たる機緣ぞや、噫我同國の女子よ、同心の女子よ、予ハ君とハ新知なれども心のみは既や舊知となれり願くハ此親愛する眞情を終始相全からしめよ……と心に願つた、ダが君(苦弄日亞士を指す)僕が最初此

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の愛情から不思議を感じ其の不思議から更に愛情に立戻つて一層其切なる處既に戀慕の小口にまで踏込み掛ッたは決して無理でも不法でも無いで有らう：：：扨説話復緒祈禱も早や終れば僕は彼人と一所に堂を出る：：：此時僕は彼の人に對い、其住所は何方で、御名は何と、又お訪問申ても宜ろしいか、と尋ねんと思ひ居たるに宛も彼人の容貌と何處か相肖たる一人の美少年が堂の前なる石階の上に待て居て聲を掛て彼人の手を取た、スルと彼人は僕に向つて告別した：：：此時先方も僕の顔を：：：見た樣だが：：：忽ち群集の人に紛れて其姿が見えなく成れり：：：花下に狂風に遇へる恨み月前に重雲を見る悲みも何のソノ、是非なくスゴ／＼と家に歸りて扨此上の思案はと云ふ時生憎要用の書簡が來て例の相續權關係の事件が僕を驚かして何事も遂しめず已を得ず雅甸へ發足し：：：其も幸ひにして甘く片附き：：：ヤレ嬉しや然らば直にと再回尼亞波利西に引返し僕も歩けば人をも頼み右の見失なつた同國婦人を彼の全府中悉皆く搜索たがア、殘念なる哉何方の人か唯一つの手繫だも得ず、搜ね倦みて詮方なく責ては彼の美艶い瞥見の記臆を腦髓から分離さん爲に此府（奔彪）の奢侈社會に一身を突入れつゝ幽愁を遊樂にて紛雜かさうと思ふ計りに斯う急いで立返つたり：：：即ち僕が戀慕の歷史は斯くの通り：：：故に僕は敢て戀を試みたと云ふては無し：：：唯旦暮思ひ出しては悲哀を感ずる計りの事のみ

虞朗加士が一時間餘の熱心なる（惚氣にあらぬ）戀慕談即ち其身の小歷史を語るを聞て流石の苦弄日亞士もガッカリし偖之に答ふるには何と言なば宜からんか打破しては元も子も無しさりとて此の痴談を汚目々々（此方にては痴談と聞くも道理あり）有難く聽聞と聞て居らんも馬鹿々々し今夜の馳走は別個として明日何物をか奢らせん歟、金を借らん歟、何う爲やう歟と心の裏に思案しつゝ頓て口を開かんとしたる折柄綏やかなる重き跫音を濱の眞砂に響かせながら此方に近づき來る者あり二人は此に心づき誰かと振顧りて其方を見たり

○小說神髓　（第一篇）

蘇格氏著ケチルヲルス　（第二回）

トレッセリアンはパーチーを組布いて早や止めを刺んとする時マイク家の内より飛び出でゝ矢庭にトレッセリアンを突き除け辛くも之に敵して妨げたればトレッセリアンは止を得ずして其儘に立ち去りたり。パーチー危うき命ちを助けられて漸やく起き上りマイクにわつく禮を述べて偖て汝ぢは何物ぞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

出來る丈けの褒美を取らせんと云ふに私は當今何の用もなくさまよひ廻わるものに候へバ何卒御手下に遣ひ下されたし中々の圖太きものにて眞心などに縛らるゝ弱いものには之れ無し切度お役に立ち御損には爲り申すまじなど云ふ中々頼みに爲る奴なり己れが遣ひ呉れんとて二人連立ち再び家の内に入りたり。

扨ても此のパーチーと云へる惡る者はレスター侯の家來にして侯を取持つとの甚だ巧みなるより二なきものと思ハれたり元來エミラブサート孃に掛想し初めは色々として之に言ひ寄りたるが中々斯るものゝ願ひの成就すべきやうなく常も菅なく退けられたるが或る時主人レスター侯の伴をして彼の孃許へ參りたる時此時侯は特更に身をやつして平常の人の如く持なしたるにも係らず其風采の温にして雅なる其辯舌のさわやかにして行屆けるなんど一々に孃の心を打つて立ちまちに愛情の情甚だ濃やかとなれりしやうに見へたれバ狡猾奸智のパーチー早速に之を悟りて一と先づ孃を侯に嫁し其上にて又ともかくの手段あらんと算用し遂に孃を連出して侯に渡し或る處ろにて婚姻の式を行はしめたるなり之もパーチーの考にては只だ侯の妾をもひものゝ如く只だ日かげ物として置かんと望みたれどもラブサート孃意氣高尙にして之を承引せざれバ止を得ず假に此の式を擧げたりと云へり。而るに孃は尙ほ此の婚姻を公けにせざるを怨み何故に世に知らせてハ不都合なりやなど侯に迫らるゝとあり侯も亦た之に動かされて速かに之を公けの夫人と爲さまく欲すると雖ども常もパーチーの諫めに止められて思ひ止みぬ而してパーチーが此の諫めを呈するは悉く皆な其一身の利己に出づるとハ知らる。

パーチー、マイク、内に入りてフホスターに會へるときマイクの元來フホスターを知れるよしを聞て三人一層の知己と爲り之より同穴の狸と爲つて共に働かんとは約したり然るに此日トレッセリアンの如きものを當家に來らせ彼の如き混雜を引出させたるよし若しも殿の御耳に入らバ事の起りは吾等が怠りに出るとして何如なる御叱りあらんも知れず何卒此事は之れ限りとして殿に御かくしありたしと言ふにラブサートは妾わ何事にても侯に秘することを得ず思ふと知れると悉く之を申上ざれバ思ひ安らずとて中々に承引せざるをやうやくに強いて然らバ先づ侯に申すまじと約束せしめたるが之れぞ憫れむべしラブサートが後年の身の災ひとは成りにける。

ラブサートは最初レスター侯を世に止ん事なき殿とは知らず

懸想して遂に其思の屆きたるのみか先づ一と通りの式を履んで侯の夫人とは爲られしが未だ世に公けにするを得ずして世間に侯爵夫人ぞと披露するとを得ず人間の遺憾は獨を望むに在り今ま既に朧を得たるほどの身分にも此事至大の恨みと爲つて始終快よからず思ひ作らも妾が愛し奉まつる侯の御身の上の御都合とあれば固より彼此と申すべき理わりあし然らば切めて侯が御朝廷に出仕あそばす御衣裳のもようを拜しまゐらせ他日侯の御手に伴われて宮に登らん折の樂しみを想像せばや哀れ正式の衣冠を着けて一度び妾に見せたまわれと請ひ申したるが今夕は即はち侯が其の御形にて來り玉ふ日に當れりとて愛侍ゼーチと共に其處此處取片付け待ち奉る抑も此のゼーチは彼の老人フホスターの娘にてはあれど父には似ず心のやさしきものにてラブサートに侍づき忠誠至らざるなし日全く暮れて燈明のかゝやく下に夫人を慰めて彼此と物語らう折り衣を磨る音ざわり〳〵として人の近づくが如し。

佳傳

○チリムピア、モラタ　（つゞき）

詩神ミウスを神とし古の騷客文人を友とし智を錬り讀書に耽るを以て最樂の事と爲したるモラタ孃は當時の文學社會に其名轟きわたり王宮ゟは上みの御覺え双らびあかりしかど其父が末期に最と平和沈靜の有樣にて永眠したるを目擊し往くもの丶樂んで留まるもの丶悲歎遣る方なきは何故ぞ而も我身人界の榮譽を盡して尙ほ心中に爽快の喜びなきは何故ぞ彼の詩神は我情を動かすのみにて我心を安んずるに足らざる乎彼の騷客文人は我を八方に誘ひ出すのみにて我に靜かなる慰めを與ふるとの出來がたき乎嗚呼眞正の平和幸福は果して何の境界にひそみ居るやなど思ひ煩らふ折から兼て宗教改革者と交りを結ぶとの親密ありしより孃をねたむもの之に乘じて王宮に讒し彼は改革者と徒黨して法皇に反むかんとすと訴へたれば孃が自ら罷り出でゝ之を陳述せんとするに先だち途次にて之を妨げられ遂に全く御殿の出入を禁ぜられぬ斯て其家に歸りをよりは父既に逝きて母素より弱はき質あれば自から家政を處理して朝夕の炊事を爲しぬ茲に於てかミウスの神は竈の煙に苦しめられて來らず數多の古文珍書は庖厨の棚の塵にまみれたり然れど艱難は人を宜きに導くの導師とかや此時よりして聖書を熟讀し初て信仰の念を起し之によりて詠み出でたる二つの詩（一は眞正の貞操と題してラテン語の作一は十

字架の面影と題してグリーキ語の作）は昔したゝ詩神に動かされて打ち吟じたると同日の類ひにはあらず。

噫危平險哉人生之行路と身を側てゝ暫し咨嗟せしオリムピアも今は幽かに微光を認め仄かに徑路を見出したるに愈其行路をして平坦安穩ならしめし出來事ぞ起れりソハ其頃醫學士の稱號を得んとてフエールララに來る年若き獨乙人ありけりシナッピの親き友人にてありけれバ時々オリムピアに面會する折ありたりしがオリムピアが今日の有樣に不愍の情を起せしや將又嘗て王宮に在りし日の其譽と榮を慕ひてや頻りに愛情を注ぎ遂に偕老の契を申し出でしに斯る憂の中に落ち沈み顧みる人もなき折からなれバ一入其厚情に感じ「公爵夫人の憎しみも吾身の不幸も厭ひ玉はで妾を妻とし娶り玉ひ共に憂苦を頒ち玉はんとはこれに勝る愛心は無之誠に冥加の至に候」と玉なす纎手を與へしは千五百五十年の終り頃にて今ははや醫士アンドリアス、グレンスレルの夫人とはなりぬ然るに其良人は更に譽ある學位を得んとてヂヨルマニーに向て出發せしがオリムピアは獨りフエールララに在て空しく寒猿の愁を結びたり扨て其間互の間に往復せし書信を見ば夫人の赤心を知るに足らん、

妾は君に御別れ申してより獨り寒燈に對して君を思ひ更闌けて倚眠に就き兼ね候は一夜ならず二夜ならず既に幾夜衣を重ねしに今夜も倚君在しまさじと思へバ妾が腸も斷ちなん心地致候ア、妾は最早生きて君を見候事は叶わじや遙かに君が天を眺むるも影に伴なく晩鴉の群て歸るを見れバ轉た君を想ふの心切に亂れ我君は望を失ひ玉ずや我君は憂にましまさずや但しは健康にて渡らせらるゝかと思ひ煩ひ現實の憂の外に更に想像の苦をも加へ候故にや君の在さざる事は恰かも妾を獄問の責に委すが如く妾が身も日に衰弱仕候餘りに強情き事には候はずや實に此の廣き世界にて妾が心に於て最も愛する者は君にして最も敬する者は亦君にまします事天の神の知し召し玉ふ所にて君も亦御知り玉ふ事ならん若し知り玉はずとなれバ妾は更に君に告げ參らさんア、吾良人ヨ君若し今夜妾と共に此所に在り玉はゞ妾が君を敬し君を愛する如何計りならんかを知り玉はんに……

反へすぐに分離の愁を説き切に歸途を促せしが斯る時には一入神の助を願ふの念愈篤くなるに而かも已が心の暗を照らして迷ひの雲を開き父なき人の父となり玉ひし神なりと豫て身の經驗もあれバ其良人に勸めけるは、

ゝゝゝ然れバ君、君が身を神に托し其潔き手の中に君を置玉へされば神ハ君を其坐に取り玉わん妾が心は今深き悲をもて擁せられ候誰れか妾を慰めくれ候人にやチー若し大神の冥助なかりせバ焉かで此の憂を醫し申すべき我夫ヨ我生涯の友ヨ妾ハ妾が滿腔の愛心と誠とをもて君も亦然々神に事へ神に祈り玉はらん事を勸め申上候。

當時宗教改革に連なる學者達ハ既に安全なるフエールララの隱れ家を逐はれてシナッビハボルヅボルクにチリアンはスビレスに赴き物情洶々として社會暗瞑たり宮を辭し友に別れ又良夫に別れしオリムピアは一人愁に堪へ難かりしも卻りてこれぞ身の信仰を暖むるの方法となりしと見へ友人ラビニアに「妾ハ至愛の神が福音の道標を立てゝ信仰の路次を示し罪惡憂苦の暗黑世界より榮光和樂の新天地へ導き玉ひしを深く感謝す」と申し送り又次で「妾が幼年の頃より心中に燃へ立し智識を愛するの念ハ今や救主を信ずる活ける信仰に由りて聖められ高められ愈熱く心中に燃へ候と書き遣はせり此時ぞこれオリムピアが靈魂上及び智識上醒起の時にして其意思其精神共に一個のクリスチアンとはなりぬ斯くて過ぎし昔を顧みれバ偏へに斯る生の光に親みなかりしを恨むも又靜かに思を周らせば全能の手ハ其頭上に在りしと見へ誠と美と善とを得ん爲め古文古典を研究せしも得る能はず遂に全能大能の膝下に伏して教を乞ふに至りたり去れば其才と其學を盡く眞理と正義の爲めに贄とし人民の幸福と神の榮光を買はんと勉められたれば今も尚心を熱くして學を攻むも其學や啻に人智の境域に止まらず又聖書に由りて神の奧義を叩きつる其精神ハ全く己が爲ならで神の婢たり主の侍女たるの誠の心にてありき去ればにや「妾が淺墓なる才智も神の榮の方法ともなり得んこそ誠に嬉れしくこれに勝る賜ハ候はじ」とラビニアに書き送りたりこれよりオリムピアが生涯の新面目をなせしこと巳下の傳記によりて見るを得ん。

●寄書

初空梅見月雜詠十首　横濱辨五京南舘　あやめ

一月一日

あらたまの年たつ今日はことさらに千里の外もゆたかなるらん

新年鶴

うら高く立まふ田鶴の一聲を年の始めに聞くそうれしき

初春

山里はまた白雪もきはなくにみやこは春の空そのとけき

浦春曉

住の江の松もかすみ朧ろのくらくみゆるは浦の春のあけほの

梅香薰衣

朝またき梅の木かけにたゝすめはわか袖にさへうつり香そする

柳

ふく風に柳は糸をよりそめてかすみのきぬをぬはんとやする

夜梅

軒近くかをれる梅はうたゝ寐のゆめにもあまるにほひなりけり

梅香移柳

春風の吹くることに青柳のいとゝゆかしき梅の香りする

青柳風靜

吹く風は靜かなるらん青柳にかゝれるかすみ晴れんともせぬ

朝霞

見渡せは富士の高嶺は晴れなからかすみに匂ふ春のあけほの

○加藤弘之先生の品行論を讀み聊か微意を陳べて同胞の姉妹に望む

相模國津久井郡中澤村　安西りき子

加藤先生は妾等姉妹をして可憐の境遇を脱却せしめ以て充分の權利を振張せしめんと欲せらるゝの人なり頃日先生又東京學士會に於て妾等姉妹の爲めに品行論なるものを演述せられ妾等が尤も愛敬讀翫するところの女學雜誌之を載錄して遠く田舍の地に在るところの妾等に知らしむ妾は今先生の言に付き淺學杜撰を顧みず聊か微意を陳じて同胞の姉妹に望むあらんとす請ふ讀者幸に欠伸の多々なるを忍び妾をして言ふあらしめよ

却說加藤先生の言に曰く吾邦男子は主として已が權利を振張するにも拘らず女子に對して權利を與へざるは何ぞやと世の賢き姉妹は如何なる感をなし玉ひしや愚なる妾等は眞心に誠一誠せずんばあらざるなり今や妾等姉妹が斯く可憐の境遇に沈吟する所以のものは其の原因や一二の僅かなるものには非さるなり實に其數多なり是を以て妾等が幸福快樂自由權利を振張せんことは又一二の僅かなる手段を以て能くするものには非るなり彼の優勝者なる男子の庇保の如きは固より多少仰がざるべからずと雖も然れども權利なるものは實力の眞面なり若し內に實力なくして外に權利あるも虛飾而已虛影而已少しく譬へを殊にすと雖も沐猴にして冠するものゝ如し豈に妾等の庶幾するところならんや妾等實に眞心に誠一誠せずんばあらざるなり

見よ彼の歐米の婦女子を見よ實に幸福快樂自由權利を得有すべき實力あるを知らん彼等婦女子は活潑に人文開明の大氣を呼吸し優渥に技藝美術を修得し或は敎育家となり若くは新聞記者となり又は電信局の技師となり鐵道局の書記となり其手に覺へある藝能を以て戶外活潑の職掌に從事し其一歲の所得收入を問へは或六尺鬚丈夫の右に出て其一身獨立の謀をなし百年の苦樂必ずしも他人に依賴するを要せざるもの少しとせず吁是を吾邦婦女子の終世を其良人に委ぬる者に比すれは其等差果して如何ぞや實に月鼈雲泥も啻ならざるにあらずや是れ即ち歐米婦女子の權利ある所以にして吾邦婦女子の之れなき所以なり吾同胞の姉妹達徒に男子に權利を附與せらるゝを望むなく宜しく已れが幽閉微弱の習弊を矯め其心身をして活潑强壯ならしめ首として開明の書籍を繙き眞理のある所を究め一室に隱閉することなく廣く良師益友に交り社會全般の事物に注目せよ權利なからんことを望むと雖も得べけんや權利天上より落來て妾等が軀軀に纏ひ啻に夫妻和睦の自由快樂を得るのみならず投票參政の權を得歐米の婦女子をして吾邦婦女子の勢力あるを羨望せしむる亦決して難きの業にはあらざるべし何ぞ男子の權利を慈惠附與せらるゝを望むの迂を要せんや或人曰く婦人開明の程度は實に邦國上進の等差なりと妾等姉妹は豈に夫れ旃を勉めずして可ならんや聊か望む所あり微意を陳じて同胞の姉妹に告ぐ

●宮庭錄事

○勲章御佩用　皇后陛下は去る十一日(紀元節)始めて勳一等寶冠章を御佩用あらせられたり

●新報

○公賓淫廢止建議

高知縣會に於ては去月廿九日の議事中廿二番議員植木枝盛氏の發議にて縣下娼妓營業公許の議を斷然廢止せられたきよう縣知事に建議せんと申出せるとき十一番議員(都築氏)を除くの外か孰れも贊成にて直ちに之に可決したるよし飛報ありぬ吾人玆に謹んで之を奉謝し且つ議員諸君が必らず其建議の聽可せられんとを期して盡力ありたきを祈り同時に全國中眞正に自由民權を重んずるものは宜しく先づ娼妓全廢の大業を忽諸にすべからざるとを勸告す蓋し同胞姉妹が牛馬同樣の職業を爲すを公認して恬として之を顧みざるものは眞とに人權を尊み女權を伸らんとするの君子にはあらず。

○紀元節奉祝會　去十一日華族女學校に於て紀元節奉祝の爲め唱歌を施行し宮內大臣文部大臣其他貴顯方參會せられたりと

○功勲徽章　日本赤十字社にては西洋各國の例に倣ひ今度功勲徽章を製し同社及各國の聯合赤十字社にて功勞ある人々に贈與するとになさんと目下協議中のよし

○繪畫共進會　畫家菅原白龍氏外數名より今度東洋繪畫會に於て來四月一日より繪畫共進會を催すに付き上野公園竹ノ臺の舊博覽會跡の建物二棟を同會場として五月三十日まで借用したき旨農商務省へ出願したりと

○鑑畫會　同會は去る十二日木挽町の貿易協會に於て例會を開らき諸家の繪畫を陳列して縱覽を許し且つフェノロサ氏(日本美術工藝の將來如何)岡倉覺三氏(東洋社會に於ける美術の地位の沿革を論ず)の演說ある筈なりしが都合に依り來る廿六日に延引せり

○東京金蘭會　去る十一日向島大谷木氏別邸にて同會を開かれ種々の餘興ありたり

○福山婦人懇親會　同地有志者相謀りて女子の進步を促し家庭敎育家內經濟其他女子の爲し得べき職業を與へ幾分か女權を振張せしめんとて去月廿三日同地松城町忘歸樓にて同會を開らき婦人のみ卅名ばかりの來會ありしと

○女子職業學校　仙臺區大町一丁目なる彤管學校(裁縫敎授)の校長志賀知子は東

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

北地方の婦女子に適應の技藝學科を授けんとて今度仙臺女子職業學校なるものを設立し其教科を甲乙二種に分ち教授の科目は裁縫科を始め讀書、算術、家事經濟等とし脩業年限は兩種合して滿五ヶ年なるよし尤も束修授業料を要せざるのみならず授業に要する物品は總て同校に於て支辨すと云へば婦女子にとりては此上なき便利ゆゑ開校日淺きも入學を申込むもの多しと云へり

○孤兒院　大阪川口に設けある維美那女學校中の爲神所働婦人協會にて今度大阪孤兒院と云ふを設置し年齡滿三年より七年までの孤兒にて頼るべき所なき者を救恤及び教養するよし首唱者は米國婦人ドリンナン氏にて既に府知事にまで右の願書を出し差し向き十四郡區役所部內より一人づゝを入院せしむる筈なりとぞ

○宮城音樂會　曩に設けありし箏曲演習會を宮城音樂會と改稱し去月廿九日其第一會を同地の揖翠館に於て催ふせし由

○和洋裁縫會　新潟女學校の教諭西村早枝氏は今度有志者と謀りて同地に和洋裁縫會といへるを設け有志の婦人へ裁縫其他編物などを教授し居ると云ふ

○堺區立女學校　大坂府下堺區車之町東一町に區立女學校を設置し去月廿八日府知事臨場開校式を執行せり同校は年齡十四年以上にして尋常小學科の學力を有するものを入學せしむるものなりと

○婦人懇談會　高松市街女教員諸氏の結合に依り婦人懇談會と云ふを創立したり

○和歌山高等女學校　同校は昨年英人ハヅソン氏を聘して三年以上の生女徒へ英語を教授することとなしたるが爾來同氏の盡力と生徒の勉勵により語學の進歩せしを以て入學者頗る多しと云ふ

○婦人夜學會　高知本町深尾のゑ女史の發起により此程より同人宅に於て夜學會を開き晝間餘暇なきもの及幼少の女子の色々なる事情によりて學校に行き得ざるものを教授し居ると云ふ

○渡邊、橋爪の兩女子　女子裁縫科研究の爲め昨年二月上京せし石川縣尋常師範學校教諭試補渡邊幾、橋爪重の兩氏は東京共立女子職業學校に在學し一月中同校を卒業して尚一ヶ月滯京西洋洗濯法を研究の上歸縣する由

○女子談話會　金澤女子談話會にては去月廿一日會員林すかの氏の宅にて定會を開きしが當日は舊同所師範學校長檜垣氏及び令閨の送別を兼ねたる會にて會員一同より檜垣氏へ花瓶一對を贈りたりと

○婦人會演說　米國女教師エー、エル、ハウ氏は米國ボストン府に於て多年幼稚園に從事せし人なるが昨年末神戶港に至り同所基督教徒婦人會の依頼に應じ去る四日北長狹通六丁目の會堂にて幼稚園に關する演說をなせし由

○仙臺の婦人　佛者中有名なる北畠道龍氏が仙臺へ巡歷の際氏の說盛に行なはれて贊成加盟せしもの二百餘名に及び內婦人は八十餘名もあり婦人中重立たるものは同地に一の婦人會を設け每月一回乃至二回同氏の法話を乞ひ幷せて婦人に必要なる學藝を研究せんとて去月廿五日其第一會を開らきたりと

○大坂一致女學校　昨年の春櫻井ちか女史が校主となり西區土佐堀三丁目へ設立したる同校は益隆盛に向ひ現在の處にては教場の手狹なると雜沓とに依り不便なれば迚先頃より東成郡玉造村に校舍を移すこととなし同村の地所二千四百餘坪を買ひ入れ建築に着手せし由なるが竣功の上は寄宿生百名通學生二百名を募集すべし

○小田原女子學藝館　同館は昨年八月頃初めて婦人毛糸編物會と稱し專ら編物及英語學等を教授し來れるものなりしが今回改めて小田原女子學藝館と名つけ智德藝の教育を施す由館主は女學熟心の久保田榮氏にして頗る隆盛の趣きなり

○產婆開業試驗　新潟學醫校の來る三月限り廢止となるに付ては附屬產婆教場も同時廢止に屬すべきものなれば縣廳にては廢止後產婆發生の道なきを以て今度產婆開業試驗と云ふを設け普く試驗の上にて同業の許可を與ふることとなす筈の由也

○婦人謝德會　今度秋田なる寺町本願寺にて婦人謝德會なるものを催されし趣なるが同會は重もに佛教の眞理を講ずるものゝ由

○京都婦人共勵會　去月廿八日室町錦小路上寶錦舍にて婦人共勵會を開き米人グリーン夫人(婦人家に在の心得)森田久萬人氏(婦人の志氣を論ず)の演說ありし由

○大津婦人慈善會　同會は去月廿二日大津寺內顯證寺廣間にて開設し會長中井夫人其他百五十餘名の來會者ありて彼の琵琶湖小松沖にて滊船衝突の際溺死したる者の家族へ金若干宛贈與せんとの發議者ありしかど同意者少なく否決し別に去る五日の夜滋賀郡堅田村出火の際合計二十餘戶の罹災者中二三戶を除くの外總て貧困者なるを以て一戶に付白米一斗宛の割を以て救助することに可決したり尚ほ京都の赤松連城師の代として鈴木法琛其他贊成者英立雪及神戶女學校教員河村順子の諸氏が演說して閉會せりと

○子供のはなし　（第二回）

ハイ〳〵とタヾイマ

坊やお前は常もお歸りと云ふ時にお歸りでないから惡るいよ今日は切度晝御膳に後れないようにして歸らなくては成りませんよ「ハイ〳〵」と應らへ乍ら飛び出でたる十一二の子供は其儘に山に登りて勝手氣儘に遊び早や眞晝に成るをも忘れてありしが余り勞れたれば木陰の石の上に座はりて暫ばし息ひ居りたり。此時山の上より連りに人の足音高く大勢連れ立ちてドヤ〳〵と降り來りたりと見れば或は一ツ目大入道百鬼妖怪を伴にして來懸り此の子を見るとケラ〳〵と笑ひ扨も居つ

たり居つたり平常日頃ろ尋ぬるあの子僧が居るソレ連れ歸れとの命の下より小鬼二三個走り出でゝ之を肩にかけ泣くをも搆はず走り行き山又山を踏み分けて四方暗黒として霧立てこもり瀧の音とう／＼たる處に至れバ小鬼ども御苦勞であつた能くも連れ來りしよなと云ふ聲に驚き恐る／＼見上ぐれバ兼てウワサに聞く焔魔とは此者にや慘まじき目つきに睨まへ乍ら其方は始終母親の命に反きたゞハイ／＼と斗り言つて一度も言ふとを聞かず不埒の至りに付今日より毎日ハイ／＼百遍の日課を學ぶべしと言ひ渡せバ小鬼承まわつて子僧此方へ來れと用謝なく引立て地獄の學校とも覺ゆる所ろに至りて見ればゞ幾百人の子供一列に並らび或は「ハイ／＼」或ハ「タヾイマ」或は「モウ致しません」或は「切度致しません」など同じ事を幾度となく繰反すよう也。小鬼は同じように睨み付けて其方今日は初日ゆゑ「ハイ／＼」百遍の課業で勘便するが明日は二百遍明后日三百遍言ハなくては成らん其後は亦たタヾイマを四百遍「モウ致しませんを」五百遍と日々數を增して多く言ハせる筈而して少しでも怠ると直に叩く少しでも止めたらば只だは置かぬと最と嚴しく申渡し出で去りたり。幾百人の子供は已れを詠めつゝ又中間が殖たと云ふ顏付を仕ながら刑罰の恐ろしさに傍目もせず彼の今入の子供も斯てあるべきならねバ先づハイハイ‥と呼び出し乍ら嗚呼今日は百遍明日は二百遍毎日段々と刑罰が重る斗り夫にしても母さんが不斷斯々せよと仰つたとき若しハイとも言はず只今とも言はず早速に致したとなら此樣な苦しひ所ろには來まじきに扨ても母さんや父さんはあれ程に私を可愛がつて下すつたに嗚呼もし再びあの世に行てお目にかゝつたら能くおワビをして可愛がつて貰ひ今度こそ何事でも用事を聞ませうと色々後悔懺悔しながら思はず口に唱ふるとを止めたれば青鬼マッカに成て怒り棒をつ取つてハッタと叩く、アット叫んで倒るゝとき愕然して眼を開けば此は是れ山の邊の石の上にて思はず假睡したる間だの夢なりけり。扨ては夢なりきと驚く迄に喜び走り歸りて家に入りて見れば午飯すでに濟み机の上に其の食べき食物の殘りてあれば又もや父母の有がたきを悟り乍ら之を謝して食し先づお歸り迄でにとて常になく膳碗を奇麗に洗ひ夕方迄で書物を讀んで待つて居るとき門口に足音がするゆゑ飛んで出でゝ母をやにすがり付き始終を話して是迄の罪を謝し之より能く言ふとを聞たればいよ／＼父母の愛を受けて多くの子供に優り樂しみくらせしとなり。

●高知縣會建議（娼妓公許廢止）議事細報の事

姦淫の空氣充滿して道德の草木國内に萎微し常に慨歎の極に堪へず殊に我が敬愛する姉妹を驅つて最も畀しむべき賤汚の職業を爲さしむるに至つては吾人豈に渇んが之を挑ゆるに忍びんや而て今ま高知縣會に於て此の一大決報を發するに會ふ吾人の感喜豈に尋常ならんや、本號印刷既でに成るの後ち更らに彼地よりの通信あり海南狂生議場當日の景況を細密に報道せらるゝものなり則ち直ちに之を追刷し附錄として讀者の覽に供ふ。

（因に云く、讀者にして若し此際女學雜誌第九號、第十號、第三十五號、第五十八號等の社說を再讀するの惠を垂れば吾人の幸ひ之に過たるはなし）

明治二十一年二月十五日薄暮

一月廿九日午後七時十分再ひ正塲を開き二十二番（植木枝盛氏）は議塲に向て建議して曰く本員は今一の建議すべきとあり其れを如何なる事柄なりやと云ふに我が高知縣に於て娼妓公許を廢止するの事件是なり其の理由の詳かなるは該建議の議塲に容納せらるゝを待ち開陳すべけれども極めて大畧のこと丈きをは玆に述置くべし抑娼妓なるものは實に明言すべからざる賤業を營む者にして政事社會に於て之を公許すると云ふは決して文明世界に有るべからざるのとなり蓋し此の如き業態の者を此の社會の表面上に明認するに至りては即ち之れが社會の躰面を汚辱するも甚しと謂はざるべからず我日本にては德川氏の時分より娼妓公許の事ありて世人之を異まずと雖も只是慣習の然らしむるのみ一旦文明の眼より照して之を見るときは實に間違つたることゝ謂はざるべからず故に槪して之を論ずれば娼妓を公許するは一縣の名譽を害し風俗を害し其他種々の弊害を醸成するとなり就ては府縣會規則第七條に依り娼妓公許を廢止するとを縣知事に建議せんと欲するなり十七番（小野道一氏）本員は固より二十二番に同意なり宜しく速に之を議塲に入るべし此に至て二十二番の建議始めて議塲の問題と爲る廿二番（植木）是より建議の理由を詳述すべし而して本員は之を述るには事項を數種に分ちて論すべし第一には娼妓其本人に關するとなり元來此世に於て娼妓と爲るものは槪して貧困の餘りに此に陷るものにて或は親の爲めとか兄の爲めとか孰れも一家不測の災に罹りて幾んど之を如奈んともする能はざるより女たる者其身を鬻き以て一家不幸の極度に沈淪するを救ふ譯なれば心情に於ては實に感すべく又甚だ愍諒すべきもあるべし然れども人間眞乎の道德よりすれば決して許すべからざるなり何となれば姦淫するを勿れと云へる神誡は竊盜するを勿れと云へる神誡と並列すべき譯にて今人貧窮に迫ればとて竊盜するを能はざれば之と同じく貧窮に迫ればとて娼妓と爲るとをは許すべからざればなり今世の人窮すればとて泥棒を爲せば之を咎むるにも拘はらず窮すればとて娼妓と爲るを咎めざるは是れ其の未だ道德の何物たるを知らざればなるへし是に至つてや如何に事情は愍諒すべきにもせよ女たる者身を鬻て娼妓と爲ると云ふは元々が間違つて居ると云ふとを知るべし且又今日の如き公許の規則によれば娼妓の鑑札を受くるには本人の姓名身分住所等は勿論其親族の姓名をまで顯はして願書を差出さゝるべからず然れば今日の娼妓は公然其名を見はして賣淫をする者なり是の如くありては自ら私は賣淫者で御座りますと云ふとを公然世間に吹聽する譯合にて云はゞ其額へ賣淫者と云へる燒印を押したるも同樣なり是に於て乎其身一たび娼妓に陷れば其人は死人と同じとにて再び良民の社會に歸せんとするも決して得べからざるなり何となれば自身には其後に至り泥水社會より足を洗ひ且つ乃の心をも改むるにもせよ其人にして曾て公然賣淫者たるとを世間に吹聽し誰も彼も之を知つて居る以上には一旦之を改めたるぞと云つても天下の良民は之を見てアレは賣淫であつて賣淫であつたと公許すれば其名は何時迄も滅し難ければなり左ればなり凡乃人の女たる者にして公許の娼妓と爲るとは實に愍むべきの極りにして吾々は決して默視するに及びざるなり是れ第一の論點なり第二には社會の上より論すべし蓋し世に於て政府を立て法律を定め萬般の施設を爲すものは各人の自由權利を保護し且其財產若くは營業を保護する譯なれども左ればとて如何なる營業にても公然之を認め公然之を許可すべしと云ふとはあらざるなり即ち賣淫をするとをさへ政府の眼中に認め公然之を許可し且之を保護せざるべからずと云ふとは無かるべし固より世の中に於て全く賣淫が無くなると云ふとは餘程に道德と宗教の感化が進まずては望むべからざるとなれば今日の我日本などに於て社會の裡面にまでも賣淫がなくなるとは思ひも寄らざるとなれども之を政事社會の表面に認むると認めざるとは政事家の意見次第にて如何とも決斷するとが出來るなり現今歐米諸國の如きも試に社會の表面を探訪すれば賣淫は山の如く海の如く其夥多なると驚くべきほどなれども偖て吾々が其國に抵りて其政事家に向ひ貴國には賣淫が御座るかと問へばイヤ左樣なる者は御座りませんと答ふるなるべし是れ其故は公許をして無ければなり例へば倫敦市中に於て賣淫の數は幾千万もあるに相違なけれど英國の政事上には之を公許するとなく政事家は斯の如き者のあるとを眼中に入れざればなり然るを今日の如く政事社會の表面にまで之を認め之れに課するに租稅（賦金と唱ふるにもせよ）を以てする以上は試に他國人が來りて貴國には賣淫が御座るかと問はれんにイヤ左樣なる者は決して御座りませんと決して答ふるとが出來ぬなり是に至つてや其の政事社會中には賣淫を包含し居るものと謂はざるべからず是れ之を政策の得たるものと謂ふべき乎吾々をして之を評せしめば其社會は實に價値なき社會と爲さゝるべからざるなり啻に價値なしと稱すべきのみにあらず實に社會の躰面を辱しむるものと爲さゞるべからざるなり則之れが公許を廢するとは當然のとにあらずや是れ其の第二論點なり第三には梅毒檢査の事に就て論ずべし凡乃世間にて娼妓公許を是認する者は動すれば言ふ世に於て娼妓を公許するにもせよ公許せざるにもせよ賣淫は兎角に之れあるべし左ればなり今若し之を公許し其の姓名を警察の帳簿に記し嚴き規則通に撿黴をすればこ乃惡疾の蔓延を防制するとをも得べけれ然らざるに於ては梅毒をして瀰蔓せ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

しむるの大患あるべしと固より檢梅のヿあれば幾分か其毒を防制するの便なしと云ふにも非ざるべし併し試に思へよ之を檢査するは毎日爲すものにあらず僅かに一周間に一度位のヿなるべし然れば其檢査日の翌日より次の檢査日までに該毒を包含し來らんには乍ち之を他に移し隨て段々と傳染するヿを爲すべし啻に然るのみにあらず玆に檢黴のヿあれば世の登樓家は恰も保險付きの思ひを爲し安心して遊蕩に走るヿなるべし而して右の檢黴は全くの保險とは成り難き譯にて安心して度々遊蕩に走るの結果は却て檢梅の事なくして惡疾懼るべし懼るべしと戰々競々娼廓に馳車するは自制する時よりも害毒を得るヿ多かるべし且又政府の本職上より之を論ぜんにも政府てふ者は決して人の陰部をまで檢査せざるべからざる義務を負ふ者にあらざるなり政府にして斯の如きヿを爲すは恐くは政府の尊嚴を瀆すヿ無しと謂ふべからず而して今其被檢者より之を云はん乎凡そ女子にして其陰部を他人に見せるヿは實に千萬すると雖も忍ぶべきにあらざるなり況んや之を政府より命ぜられたる醫員に檢査せしむるに於てをや然るを今且つ規則を設け是非とも其人をして檢査を受けしむ是れ豈に人をして斷然恥かしきヿを知るの眞心を滅せしむるの一大劇手段にあらずや然り而して猶ほ且つ人をして恥心を養はしめんと欲す寧ろ謬戾躍切の至りにあらずや是れ其の第三論點なり第四には淫風の溢るゝを預防すると云ふヿに就て論すべし蓋し公許を是認する者の說に以爲らく若しも世に於て公許の娼廓を設け置くときは淫風の滿溢せんとする者をして之を其の娼廓と云へる別天地へ馳入せしめ始めて善良の子女を保護するに足るべし若しも然らざるに於ては淫風其處を擇ばず社會の全面を犯すヿと爲り隨分善良に立行くべき子女をまで其害に引掛らしめ實に懼るべき次第となるべしと彼の獨逸聯邦中の或る部分にて公許の政策を取るが如き即ち是等の趣意に出つるものと見えたり然れども此の如きは寔に空論と云ふものにて決して實際に其効あらざるなり唯に効驗なきに止まらず却て益々淫猥の風潮を盛んにせしむべきなり凡そ人間てふ者は其事物を見聞するに隨つて之に感じ之に移り隨つて其風習に染む者なり然るに今其市中に於て娼廓ありと見よ其近邊の男女は皆之を見之を聞きて遂に其風潮に移る者幾何の多きとを知らざるべし是くありては恰も淫風の瓦斯を製造する一大竈を造るものにして此處より無數の淫風瓦斯を盛んに傍近へ傳ふるヿは決して免かるべきにあらざるなり是れ其の第四論點なり第五には密賣淫を禁じて公賣淫を許すと云ふヿがサッパリ分らぬなり抑賣淫の事たる無類の醜業なり左れは恥を忍んで之を爲すにもせよ爲すならば秘密にして之を爲すこそ當然なれ其姓名を匿し其身躰を匿し總べて他人の眼目に觸れざるやうするこそ當然なり縱ひ之を爲すと雖も全く秘密にして爲したるものならんには一旦之を改めたる時は必しも良民社會に列し難きにあらず何となれば他人に於ては彼れが醜業を營み居たるヿを知らず又其證據と爲すべきものも之れ無ければなり斯の如くなれば彼も大に改め力のある譯にて早く正業に復し良民の仲間に入るヿあるべけれども之を公然に營業し已に其姓名を公衆に知られ其賣淫業にてありしヿを公衆に知られある以上は縱ひ正業に復し以て良民社會に歸せんとするも曾て醜業を營み居たる者なりとの名義は何時までも消滅せざるなり之れが消滅せざる以上は君子は決して近かざるなり決して之と齒せざるなり寧ろ之を秘密にするとの之を公然にするよりも優れるヿは詢に覩易きの道理ならずや然れども今日の如く秘密の者は之を禁し公然の者は之を許すと云ふヿは尤も吾々の了解せざる所なり但し此事に就ては少しく觀察すべきあり蓋し今日にして政府が密賣を禁し公賣を許す所以は他故あるにあらず已に公許の制を設け公賣の者に徵するに稅金を以てする以上は之を保護するの點よりして無鑑札にて營業するを禁ぜざるべからざるに至りし譯なるべし左ればこそ今若し吾々の議論の如く已に公賣淫を廢する以上には秘密的に對ひてハ政府は之に干涉せずして已むヿを得べし抑も賣淫は善きヿにあらざれ共之を秘密にする以上は政府たる者必しも干涉すべきにあらざるなり之を根絕せしむるは宗教家の任なり道德家の任なり政事家は間接に之を制するヿ無きにあらざれども直接に干涉すべきにあらざるべし是れ其の第五論點なり第六には我が高知縣の歷史より考察すべし抑も我が土佐にては維新前に於ては總て今日の如き料理屋も女郎屋もあるにあらざりしなり維新後上下の新地が出來たれども其れとても主として行はるゝは料理屋にして女郎屋にあらず藝者にして娼妓にあらざりしなり(間々下等の貸座敷丈はありたれども)然るに近來と爲りては追々と盛んなる女郎屋を見るに至れり實に慨歎すべき極度にあらずや蓋し從來の如く女郎屋主義を取らずして料理屋主義を取り娼妓主義を取らずして藝者主義を取る方は雜と論ずれば稍歐米の風と相似たる譯にて之を全く狹斜の地なき者に比べて善と稱すべきにあらざれども之を娼廓主義に較ぶれば可なる方にてありしなり從來の如くなれば縱ひ追々と內地雜居が行はれ外國人などが來るとするも先其見塲が善かりしなり而して今日の如き有樣にては實に恥かしき社會と謂ふべし其にても右の如く娼廓が盛んになりたる爲め一般社會の淫風を減殺する効能ありとせんには幾分か恕すべけれども事實に於て決して爾るやうの効驗はあらざるなり是其第六論點なり其他少しく之を大論せん乎今に及び我が高知縣に於て娼妓公許を廢し而して他府縣も亦之に傚ひ同一の事を行ふに至れば遂に日本全國をして總て公許娼妓無きに至らしむべし是に於て乎我が日本帝國の價値を增加し我が天皇陛下の御名譽を增加し給はしめ奉るの多きと共れ幾何ぞや思ふて此に至れば今此の建議の關係する所抑も亦重大矣と謂ふべし予は我が社會の婦人社會を保護せさるを得ず又我男子を保護せざるを得ず而して今此の建議の趣意を行ふは即ち我が婦人社會の名譽とするものなり我が男子の幸福を保護するものなり然れば今にして我が高知縣會より此の一事を建議するは實に高知縣會の絕大名譽なるべし我が高知縣の爲めに萬々已むを得ざるヿとなるべし切に願くは滿堂の議員之を贊成し以て此の說をして可決するの榮を得せしめよ二十六番(中山秀雄氏)本員は徹頭徹尾二十二番の說に贊成なり高知縣會開設以來本員をして感動せしむるヿ唯今二十二番の說に若くものなし苟くも德義心あるものにして誰か此說に贊成せさる者あらんや云々十七番(小野)本員も二十二番に同意して彼の娼妓なるものは社會に害ありて利なきものなり諸君も早く同意を表して縣知事の採納を催さんことを希望すと述へ此より決を取りしに十一番(都築正淳氏)を除くの外總起立にて決定せり

愛讀諸君に告ぐ

本誌第九十五號に附錄として掲載すべかりし日本の女況なる英文ハ印刷及編輯の都合により延引することゝはなりたり次號には必ず掲載すべければ幸に高覽を給へ猶本號には高知縣會に於て娼妓公許廢止の事を建議する決議の詳報を附錄とせり

廣告

女學雜誌社發兌書目

○鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評

改正增補 **文法口授** 全一冊●一名和文獨案内 定價十八錢 郵稅四錢

此書は文章家なる鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の實用を得たれば尚亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾に付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校教科用の書籍に適當也とて成立學舍女子部跡見女學校及び頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の教科書となりたり

巖本善治編

●**木村鐙子小傳** 定價十錢

右は鐙子の君の事歷を編せしものにて宜しく婦女子の讀んで亀鑑とすべきものなり

中島湘烟女史著

●**善惡の岐** 定價金五拾錢 繪入美本

●日次○野蠻とも言へ未開とも言へ實に太平の里なるべし○高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士○紅潮端なく上る佳人の面○一樹の名花春動く初○谿間の淸流も繁都の泥水なりしを知らずや○雙腕の勇餘す所なく滿腹の智遺す所なし○撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり○痴夢情烟春月暗し○難知一滴愛情水散湧奔波激浪來○世上の功名灰塵に異ならず○錢囊痩腹神飢以て天下の經濟を論ず○貧生の慷慨待に足らず○當路の君子にして袖の下を嫌ふものはあらじ○双蝶花に戯れて春情あり○觀樂のある處悲愁の伏する處○姉妹の談濃かにして春窓の烱微かなり○怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる○撫松庵が胸邊寒く吹き送る幾間の風ぞ腥し○世難海より深かく人情紙よりも薄すし○會離緣あり應報爭ふべからず○優なる哉水聲人事の齷齪を嘲る○情人の艶話唯閑雲の聞くあるのみ○上帝親なく唯善人に與みす○客窓涙あり孝子の情○玆に因ありて玆に果あり○人間の歡樂一塲の夢○墜葉翻て力なく懶禽啼て恨あり○地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨多し○開花原是落花風○人の死する其の言ふとや善し●賣捌○本社、銀座博聞社、原金港堂

統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序

通今居士橫山雅男君著

●**婚姻論** 定價金三十五錢 郵稅十四錢

此の書は通今居士橫山雅男君の著にして全編を二十八章に類り總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晩婚。私婚。血族婚。離婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感ずるの書なり

發兌 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

●基督教新聞

第二百三十八號 二月十五日發行

社說には將來に於ける基督敎の運動。敎報には全國諸敎會の模樣を網羅し。論說には正義主義と權謀主義の運動を論ず。小說には青年禍福の變の續稿を揭げ。雜錄には晉夢庵主人の起草にかゝる青年禍福の變の續稿を揭げ。雜錄には國家は自づから禍亂を作ると云へる奇事を記し。雜報には社會百般の重要なる記事を載せり江湖諸子の愛讀を請ふ

（一冊金三錢郵税一錢半年分前金郵税共五十錢）

京橋區日吉町二十番地

六合雜誌
基督敎新聞　發行所　警醒社

全也本基的美善之樂樂說目錄
會務直漸非之好的方法也一

社 女子教育論 家

白耳義 ポーリエー氏 著
日本 俣野晴中氏 譯

本書ハ名聲ヲ万國ニ博セシポ氏ノ著論ニシテ上下二篇通計七章ニ分ケ且追加トシテ近世ノ碩學パスチヤ、トクウ井ール、ヅユールシモン、エミールドラブレー等諸氏女子敎育ノ論議ヲ抄錄し最着實ニシテ最社會ニ必要ナルモノナリ○正價四十錢郵税十六錢

東京牛込通寺町二十九番地

政典集誌社

發兌					
一月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
二月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
三月。	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
四月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價			
一冊。五錢	郵税。一錢	（但府內無郵税）	
十冊。四十八錢	郵税。十錢	（同前）	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

（廿七字詰）

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町盛々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文春堂○横濱住吉町角田屋良○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入濟集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンガード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石春堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

東京京橋區日吉町八番地

發行所　本局　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.